在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2014/10 前期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集 北海道大学の入試について（国語）◆

北大の国語の問題は大問１・２が現代文の評論文、大問３が古文、大問４が漢文という出題構成で、定着している。合計１５０点満点。

大問１（評論文）

大野左紀子『アート・ヒステリー』という読みやすい芸術論からの出題。読みやすいが、問４などは、うっかり要素を読み落とし記述できなかった受験生も多かったと思われる。

問１　漢字の問題

７問中、１「崇高」２「浸透」３「発揮」４「奇抜」の４つが、『大学入試ＴＯＰ 2000』の「必修語」もしくは「重要語Ｂ」あたりにある。北大の個別（2 次）試験だから難しい漢字がでるというわけではなく、日頃やっていることがそのまま生きる。

問２　傍線Ａ「それ」の内容を３０字以内で記せ。

基本的な指示語の問題。注意は、大学入試の指示語問題では、直前を書き抜けば解答になるというケースは極めて稀であることだ。つまり直前をまとめればなんとかなる、という発想を捨て、文脈を押さえなければならない。文脈を押さえるときのコツは、指示語の後ろもしっかり読むことである。指示語がどんな意味で使われているのか、どんな役割を担っているのかは、傍線の引いてある後ろを確認しなければ、わからない。指示語問題は「指示語の後ろも確認して考える」これが、鉄則。

問４　「ピカソそのもの」と「『ピカソ的』なるもの」との違いを、１００字以内でピカソに即して述べよ。

２つのものを対比的に述べる問題。対比構造は評論文でよく見られる構造で、それを解答にも生かして書くことが求められている。「Ａは○○であるのに対して、Ｂは△△であるという違い。」などのように、対比構造を意識して解答を作れなかった人は、おそらく０点であろう。

大問２（評論文）

四方田犬彦「世代について」の一節からの出題。東大入試や大学入試センター試験の評論文と同様に大きな意味段落ごとに傍線を一カ所ずつひき、その意味段落ごとの理解度をはかる形式で設問が組まれ、最終問題は文章全体の論旨が理解できているかを問う 120 字問題である。この 120 字という字数も東大の現代文第 1 問と同様である。120 字で本文全体の論旨を踏まえて解答するのだから、120 字で本文を要約する練習は有効である。また、東大の第 1 問と同様の設問形式であるので、それをトレーニングの教材にするのもよい。北大を受験するのに、東大の過去問を練習に使うというのは、何となくおかしいように感じる人もいると思うが、そういうトレーニングをして、力をのばし、北大に合格した先輩もいる。

問１　傍線Ａ「わたしは世代を標榜するいかなる力にも与したくない」とあるが、筆者はなぜそう考えているのか、この段落の言葉を用いて40字以内で述べよ。

さて、この問題、まず「標榜」「与したくない」という言葉の意味がわからなければ、正答など導けない。

「標榜」は『大学入試ＴＯＰ 2000』のｐ 91 に載っているので、意味を確認。この漢字のテキストは意味も書いてくれている。漢字のテキストだから、漢字のみを学ぶ。そんな勉強法ではもったいない。意味も同時に覚えて語彙を増やさなければ、文章を読んでも意味がわからないということになる。考査の範囲になって、このテキストを勉強する生徒も多いと思うが、その時、何となくテキスト眺めながら、漢字を覚えるのではなく、書きながら、意味も合わせて覚えようとすればよい。欲張らなければ力はつかない。

「与したくない」は、「くみしたくない」と読む。国語辞書で意味を調べてもよいが、せっかくの機会なので、『漢文学習必携』で「与」という漢字の読み方を調べてみよう。「あたフ」「ともニ」「あづカル」などとともに「くみス」（味方する・賛成する）という読みと意味を確認しよう。こういう勉強をすれば、現代文の学習のなかで、漢文の学習もすることになる。

問２　傍線Ｂ「子供を不幸にするシステム」を本文中の言葉を用いて30字以内で言い換えよ。

「本文中の言葉を用いて」という条件の一般的な意味をここでは確認しておこう。本来、説明は、「わかりやすく」行うのが基本である。ゆえに、難しい表現や抽象度の高い表現をわかりやすく言い直して解答とする。しかし、「本文中の言葉を用いて」という条件がある場合は、難しい言葉・抽象度の高い表現・忘れてならないのは比喩的表現を、本文に使われていたら言い換えず、そのまま利用してよいということである。

今回の模範的解答は、「年齢に応じて子供を分断・範疇化して抑圧管理する近代の教育制度。」である。「子供の分断・範疇化」と言う表現は、本来ならば、さらにわかりやすく表現し直さなければならないところである。「年齢による子供の分断」は比喩的表現とも言える。言葉だけを純粋にみると、少し怖い表現であることから、それがわかる。

大問３（古文）

センター試験などと違って、比較的読みやすい問題から出題し、きちんとした思考力・記述力があるかをはかる問題となっているのが特徴である。センター試験より読みやすいというのは、東大の古文の問題も同じで、一度、2 階自習室に過去問題があるので、読んでみるとよい。

問１　傍線イ・ロを現代語に改めよ。

イ「いたづら人」

形容動詞「いたづらなり」の意味を覚えていればできる。「役に立たない人」程度の意味。

ロ「え養はぬ」

「え～打消」が「～できない」という基本事項を押さえているかどうかがまず大事。

その上で、「養ふ」を「養生する」などに訳せれば十分。単語といい、文法といい、傍線部分の短さといい、教科書を勉強して十分対応できる問題である。

問２　傍線Ａについて「人」がどのような人であるかを明らかにして、50字以内で説明せよ。
問４　傍線Ｃにおいて、「あるじ」はどのような人物と捉えられているか。本文全体を踏まえて60字以内で答えよ。

このような問題に対処するには、教科書の各作品のあとについている「学習の手引き」のようなものを使って練習するのも一つの手である。学習の手引きは、「～について話し合ってみましょう。」とか、「～と～の違いについて説明してみよう。」のように、やわらかい書き方になっているので、授業外で取り組む人は少ないが、是非自分で取り組んでみることを勧める。地味な学習だが、意外と効果はある。最近の教科書は侮れない。受験を意識して教科書も編集されているからである。

大問４（漢文）

古文同様、比較的読みやすい文を読ませて、思考力・記述力をはかる問題。これも東大の漢文と同様の傾向。

問１　傍線部ＡＢＣＤの読みを、送り仮名も含めて記せ。

Ａ「能」＝よく　Ｂ「乃」＝すなはち　Ｃ「方」＝まさに　Ｄ「是以」＝ここをもつて
どれも基本的な読みを問う問題である。Ａ・Ｂはその中でも基本であり、絶対落としてはいけない問題である。『漢文学習必携』で確認してほしい。Ａ「能」は p,116、Ｂ「乃」は p,125、Ｃ「方」は p,156、Ｄ「是以」＝ここをもつて　は p,135。ちなみに「以是＝これをもつて」とは読み方も意味も違うので、注意が必要。『漢文学習必携』、p,135 で確認してほしい。

問２　傍線Ｄ「汝何得罪之多也」をひらがなのみで書き下せ。

まず、書き下し文は歴史的仮名遣いで書かねばならないことを確認しよう。3 年生はすでに教科書の「四面楚歌」で学習したことだが、(2 年生・1 年生もいずれは学習するであろう。) 項王が周囲を敵（漢軍）に囲まれているはずなのに、自分の出身地である「楚」の国の歌が周囲から聞こえてくる。楚の人がすでに捕虜になってしまったのかと考え、項王が、「何楚人之多也」と言うのである。
有名な場面であるので、覚えている 3 年生もいると思うが、この表現とまさしく入試問題が同じである。「何ぞ楚人の多きや。」と読み、「なんと楚の国の人の多いことよ。」のように詠嘆で訳す。さらに、「得」は目的語をとるので、「～を得」という形になる。この点を踏まえれば、「汝何ぞ罪を得ることの多きや」と読むことがわかる。
「汝」は「なんぢ」と読む。お前という意味。「なんぢ」と読むことのできる漢字は「汝」以外に「爾」「女」「若」「而」「乃」がある。あくまでも読むことがあるというだけで、いつも「なんぢ」と読むわけではないので注意。『漢文学習必携』の p,111 を参照。教科書の表現をすぐに思い出せるよう、音読が大事である。教科書レベルの問題であるが、すぐには解けないかもしれない。こういう問題を解けるようになるためには、１・２年生には特に音読をお勧めする。教科書や模試・問題集の問題文を音読していくのである。読まないよりいいが、1 回だけしか読まないというのでは困る。また、音読は受験勉強にならぬと思いがちであるが、そんなことは決してない。音読も立派な受験勉強である。受験勉強においては、音読は「注射」のような即効性はないが、「漢方薬」のようなものと思って服用（実行）すべし。
すべてをひらがなにすれば正答になる。

問４　「自此安得獄空耶」とあるが、どうしてそう言ったのか、７５字以内で説明せよ。

「自」が「より」と読めることを確認しよう。『漢文学習必携』の p,129 下段に載っているので確認。ただし「自」を「より」と読む場合「返読文字」である点にも注目する。『漢文学習必携』p,22,23 に説明があるので、「返読文字」とは何か知らない、自信がないという人は、すぐにそのページを読んで確認しよう。「安」を「いづクンゾ」と読むときは、「どうして～」と訳すことも知っておかねば、この問題は解けない。ここでは文脈上反語。『漢文学習必携』p,72 を確認して、「安」が反語の時に意味の取り方を覚えよう。

■まとめ

《３年生に向けて》

①過去問をしっかりやりこむこと。ただし、解答は、赤本の解答を確認して満足するだけでなく、青本（駿台・自習室）、入試問題正解（旺文社・進路資料室）も確認しよう。現代文では、模範解答例が大きく異なっていることに気づくはずだ。ただし、表現の差こそあれ、落としてはいけない部分はあるので、確認すること。解答を見て満足しやすいのが、国語という教科である。解答を確認したあと、もう一度問題文を読むことを忘れずに。

②北大以外の問題にも挑戦してみよう。他大学の問題文でも、120 字で要約したり・要旨をまとめる練習をするとよい。東大の現代文にも挑戦するとよい。120 字問題もあるので。

《１・２年生に向けて》

①北大の問題は基本的に教科書の範囲内ではあるが、教科書を授業の時だけ使う人、自分で使うと言っても、ノートに本文を写すときのみに使う人には解けない問題である。

②「教科書レベル」の意味は、「教科書に書かれていることがすらすら出てくるレベル」である。こういう状態になるためには、積極的な（能動的な）利用が大切である。

③教科書の能動的な利用について
１　「学習の手引き」を使ってみよう
実際自分の頭で考えて書いてみよう。意外と力が付く。

２　現代文の要約に挑戦しよう。
現代文の要約を書く練習は、大手の予備校に通っている浪人生も、取り組んでいる。そういう地味な勉強が、咲かせる花に色を添えるものだ。

３　単語力・文法力は基本中の基本
古文単語は、「いつ覚えても結局覚えるんだから同じ」などど言う生徒もいるが、現在の学力が同じでも、「やらねばならないことを早い時期にできる人」と「そうでない人」とでは、進学先は大いに異なる。早く完成を目指した人の勝ちである。これを覚えておいてほしい。
また、『漢文学習必携』を一通り勉強することの大切さは、3 年生の中には感じている人もいるだろう。１・２年生は、頑張ろう。

４　音読は大切
上で述べたとおり、特に漢文で実行してみよう。

覚えるべきこと（単語など）は、3 年間のうち、いつ覚えるかによって運命が変わる。
つまり、運命は変えられるということ。